

七不思議を讀む

麴町幼稚園 土川 五郎

本年の一月以來本誌に連載せられた七不思議は中々物議を起して居る様である、みなと君は夢物語

として掲げられたのである。吾人は其夢ならん事を祈るのである、併し吾人の見聞する所と對照して見ると當つて居る所もある様である。何れの社會でも其裡面に弊害はあるが教育界は其最も少なきものである。保育界の裡面之れに伏在する弊害

も少ないには違ひないが、七つ位は廣い日本にはあることと思ふ。私はみなと君と感を同じくする點が多い。この關係からこの記事を精讀した。

みなと君もこれは座興に書かゝれたのではあるまい。讀者も亦これを一笑にのみは附して平然として居ることは出来まいと思ふ。

私も此の記事を極めて眞面目に讀んだ一人であ

る。そそで茲にいさゝか所感を述べることにしたのである。

(一) 動機

どうして保姆となつたか。保育に従事する様になつたのはそもゝ如何なる事に基いたのであるか。

七不思議の第四に公園の立ち聞きとして掲げられたのはそれであつた、自活の必要から。試験がやさしいから。仕事として樂であるから、時間が短いから。小學校を云はゞ淘汰せられた落ち込み所に都合がよいから。他の人にすゝめられたから。子供が好きだから。面白さうだから。清く高尚だから。幼児時代の教育が大切だから。等種々様々であらう。其内でも始めから樂をしてようと

か。暇で困るからとか云ふのは除いた他の動機はどれであつても、あまり問題にする程でないと思ふ、子供が好きだからと云ふのが動機で始めても扱やつて見ると六ヶ敷しくて困難になつて……遂には悪い動機で始めた人と同じ様になつてしまふのもある。始めは人にすゝめられても、實際に臨んで経験して見ると興味が津々と湧き出づる様になるのもある、故に動機は實際の渦中に其人を導き實驗は更に新たなる動機を作るものである、とは云ふものゝ感心の出來ぬ動機から始めたもので中頃更に献身的な保育者となつたといふ事は滅多に無く。寧ろよい動機から始めても中途から悪くなる例はいくらかもある。

(二)境遇 動機が如何によくてでも従事して居る間に知らず／＼退化せしむるものは、園の習慣、因襲、園風等である、此の感化は實に大なる力を持つて居る、七不思議の第一は即ち保母を同化せしめんとする惡魔(幼兒から見ても)の一例である。回境が

さ程でなくても鈍感になり易い。まして設備の不完全、不整頓、あしき園風習慣が之れに力を添へられては、之れに感ぜられるゝ勢恐るべきものがある。

(三)信念 保母を通じて保育することが最も大切であるとするれば、保母は小學校以上の先生よりも人格といふ點に重きを置かねばならぬ、然るに幼兒を感化すべき保母が回境に支配されて悪い感化を受ける如き事がありとすれば、保母としての資格を失つたものと云はねばならぬ、これ全く自己に堅き信念がないからである、我れは幼兒教育の任に當り、幼兒をよきに導き救はんとの使命を帯びたる者である、我は幼兒に満足を與へ、自然の發育を爲さしめ、幸福ある人類、忠良の臣民となるべき基礎を附與すべき天職を持ち、我は幼兒を除いては他に何物をも有せぬ、幼兒本位より外に我的立場はなしといふ確實な信念が必要である。

(三)保育上の三要件

1. 保育をなすには、どんな材料を擇ぶべきか

..... (What)

2. 其材料を如何に取扱ふべきか..... (How)

3. 何故に此材料を以て保育するか..... (Why)

保育をなすには前に述べた如く深き信念が根源である、而して實際保育をなすに當つて以上のホワット、ハウ、ホワイの三點が保母の心の中に明かであつて、且幼兒に適當して居るか、幼兒の要求に合致して居るか、幼兒に満足を與へ得るものであるかを願慮して行かねばならぬ。即ち云ひ換へて云へば意味のあるものでなからねばならぬ。これがないとは、まち保育にもなる。貧弱保育にもなる。

(四) 保母の知識

如何に信念があつても保育上の知識が伴はねば不十分である。幼兒に關する智識が之れに伴はねば偏狹な誤りたる保育が行はれる。僞善保育の如き信念は石よりも固いが、廣く深く幼兒を了解せ

ぬ爲めに起るのである、又智識の不足から種々な誤謬が生ずる。彼の自發の穿き違ひなどはその適例である。

保母自身としては組織的系統的統一的な頭腦を要とする、これが缺けて居つてはこの戰後教育には到底満足を與ふる譯には行かぬと思ふ。

(五) 修養

精神方面の修養は信念を作り、人格を高め、又常識を作ること、に於て缺く可らざるものであるが智識を收納する點から讀む事と聞く事が大切である。第六の飾りなき告白は講習に對する一部の感想を表はしたものである。彼の食傷云々といひ、讀むことの面倒がりといひ。お雛様の如くさちんと聽講席におさまつて居ても、心こゝに在らずとか。舟漕ぎて心は佳所に遊んで居るとか、随分穿ち過ぎて居る位だが、又實際さうであるかも知れぬ。

かくの如くしては、ありもせぬ智識は益マイナ

スになる計り、紙の如く薄き智識と綿の如き柔かなる意志(信念とは申せぬ)で何が保育が出来やうか、かゝる人が幼児以外のものを目的として保姆の職を取つたら、幼兒を毒する者である。讀むことゝ聽くことによつて益々向上發展が期待されるのである、こゝに於て社會も認むる事となるのであらう。然るに自分の道樂と云はゞ遊藝であらうが其方に熱中して肝腎の職責を忽にするに至つては言語道斷である、先づかゝる人はないと思ふが若し之ありとせば保育界の爲めに處斷せねばならぬ位の罪惡である。

(六) 外交政策

自己に信念なく、智識なく、技量なき人は必ず單獨に置けば重心の不安定な物體同様であるから勢他に寄らねばならぬ事になる、彼の有力者の門戸を叩き、其家庭に出入し、これによつて自己の地位を安全にするが如き、當局者の鼻息を窺つて自己の不安を豫防する如きは全く自己の力なきを

表明する寄生蟲で、これが一番進歩を妨ぐる者であらう。これが七不思議中の最も注意すべきものである。

(七) 責任と待遇

保姆自身が自己の責任を丁解し、飽く迄其責任を盡し得て始めて自己の權利を主張し得るのである、第一より第六迄の不思議なる現象は、責任を思はざるより胚胎し來つたものである、世の中はさかしま事の多いもので、責任を盡さざるもの却て待遇を云爲する、保姆は須らく自らの責任を思ふて其之れを盡し得ざらん事を唯畏るといふ心掛がほしい。

さればとて私は現在の待遇を以て満足して居るものでない、否寧ろ低きに過ぐることを大に感ずる一人である、人の子を教育する重任あるものが使丁の収入に及ばざるを聞いては實に驚くの外はない。當局者は保姆の資格を改正し少なくとも尋常科正教員と同等に取扱つて貰ひたい、之れが根

本である、かくなれば將來保母となるもの、學力を増進し、社會から信賴さるゝ度も深くなる。待遇も高むる事が出来る。

薄き待遇をなして、重き責任を負ひ、むるのは實に酷の甚しきものではあるまいか。

之を要するに保母が身を保育界に置く以上は、深き信念を持ち、責任を重んじ職責上ベストを盡して貰ひたい、かくすれば自然に智識も受入れたくなる、準備も行きとよく、幼兒の幸福も湧いて来る。無数の不思議も蹟を絶つ様になる。以來このいまわしき七思議の如き記事の掲げられざらん事を祈つて私は筆を擱かう。

○お断り

先月も今月も止むなき事情のために發行日を遅延いたしました、讀者諸氏に深くお詫びをいたします。

今後は大いに勉強して遅延致さぬ覺悟です。尙菅原先生の「色彩の心理」は今月も先生の御都合で頂くことが出来ませんでした、來月からは是非お願ひして續載して行く筈になつて居ります、

(記者)

毛虫

毛虫、毛虫、青い毛虫、

そなたは何處へ匍ふてゆく、

夏の日くれの磨硝子、

薄く曇れる冷たさに、

幽かすかに幽はらにその腹部の透いて傳はる美しさ。

外の光のさみしいが、

内の小笛のこいしいが、

毛虫、毛虫、青い毛虫、

そなたはひとり何處へゆく。

白秋 おもひでしより